

スポンサー様

Leonard da Vinci Android Initiative



レオナルド・ダ・ヴィンチ × アンドロイド

関西からロボットテクノロジーを世界の子どもたちへ

ダヴィンチアンドロイド イニシアティヴへ向けてのお願い

発起人: 大阪大学大学院工学研究科教授 浅田 稔

Leonard da Vinci Android Initiative

レオナルド・ダ・ヴィンチ アンドロイド イニシアティヴ

- コンセプト
- 展示プラン
- 現状
- 将来像
- 御社メリット
- プロジェクト協力体制
- 浅田教授プロフィール



Madame Tussauds@Tokyo

Leonard da Vinci Android Initiative

①科学・技術・芸術の枠を超えたレオナルド・ダ・ヴィンチ

テクノロジーが高度に統合・発達した現代社会では、一つの分野を深めるだけでなく、多様な分野の価値観を共有する必要があり、そのアプローチは、まさに、科学・技術・芸術を統合し、具現化したレオナルド・ダ・ヴィンチの精神の復興がキーである。

②「レオナルド・ダ・ヴィンチが現代にいればロボットを開発している?!」

現代にダ・ヴィンチが生きていたならば、多様な学問分野の統合の象徴であるロボットの研究者、開発者になっていたに違いない。

③世界のKANSAI ROBOTICSの象徴

ダ・ヴィンチの精神を子ども達や若い世代に分かりやすく伝え、夢と希望を持ってもらうために、関西の最先端ロボット技術の象徴として、ダ・ヴィンチのアンドロイドを開発し、展示することで、内外に情報発信する。

④未来のロボットのあり方を問う

展示内容は、ロボットのコミュニケーション技術であり、これは、日本を始めとする超高齢化社会を迎える人間社会において必要とされる物理的な支援に加え、メンタルなサポートを可能にする重要な技術である。

⑤ダ・ヴィンチ国立科学博物館とNPOダ・ヴィンチミュージアムネットワークとの交流

海外での展示は、ダ・ヴィンチの拠点であるイタリア・ミラノ市にあるダ・ヴィンチ博物館で執り行い、当博物館とNPOダ・ヴィンチミュージアムネットワークとの関係を表すシンボルとして位置づける。

また、大阪市とミラノ市の姉妹都市提携35周年(2016年)のプレイベントとして開催する。

Leonard da Vinci Android Initiative

ミラノ万博期間中に展示、そして関西へ帰ってくるダ・ヴィンチアンドロイド

ミラノ万博期間中にレオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学博物館にて展示を行います。
アンドロイドを通じて関西の企業の技術力、発想力をイタリアミラノで発信します。

■イタリア/ミラノでの展示

展示期間：2015年9月1日～30日

会場：レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館

ロボティクスエリア

毎週末、1日6回(45分)で現地スタッフによるアンドロイドの紹介のレクチャーを行います。



会場写真



2013年当NPO訪問時
ミラノ市長と共に歓迎

イタリア政府関係者とのレセプションを予定。

(経済発展省、外務省、環境保護省、経済・財務省関係者等、イタリア政府関係者など)

ミラノ万博

2015年5月1日～10月31日

9月10～13日 大阪市主催「大阪ウィーク」を万博会場にて開催。

併催としてダ・ヴィンチアンドロイドの展示を実施。



■「レオナルド・ダ・ヴィンチと歩む、ぼくらの未来展」(仮) 開催予定

2015年12月24日～2016年2月14日

会場：グランフロント大阪北館 ナレッジキャピタル イベントラボ

主催：関西テレビ放送、NPO ダ・ヴィンチミュージアムネットワーク

Leonard da Vinci Android Initiative

予算

- アンドロイドの企画、開発におけるプロモート費用は通常、大手広告代理店が行い1億円以上の費用が必要となります。しかし、イタリアとの関係が深い我々NPOがプロモートしていますので低コストで進めることが可能です。

開発企業

- 株式会社エーラボ (A-Lab CO.,LTD <http://www.a-lab-japan.co.jp>)
- 実績としてジェミノイド(石黒教授のコピー)や多くのアンドロイドの開発経験があります。



A-labが開発したマツコ・デラックスそっくりのマツコロイド



Leonard da Vinci Android Initiative

今後の展開：予算に応じて各オプションの追加が可能となります。

1. オペレーターによるリアルタイムな会話（日本・ミラノ間による会話も可能）
2. オペレーターの動きにシンクロしたリアルタイム動作可動
3. 両手の可動

予算に準じた設計となりますが、スタンダードバージョンの完成を皮切りに様々なオプション機能の追加がアンドロイドの話題を生み御社のイベントやワークショップなど広報活動、プロモーションに恩恵をもたらせることでしょう。



Leonard da Vinci Android Initiative

御社のメリット

経営的視点

- イタリア政府各省庁関係者との接点
- ミラノ、レオナルド・ダ・ヴィンチ
国立科学技術博物館との交流
(欧州企業、各自治体の紹介)

CSR的視点

- ダ・ヴィンチ アンドロイドの広報活動での使用
- 関西の「ものづくり精神」の啓蒙、教育
- 大阪大学大学院 浅田研究室との共同研究など

Leonard da Vinci Android Initiative

<主催>

NPOダ・ヴィンチミュージアムネットワーク

<共催>

大阪大学

<協力>

関西大学

大阪商工会議所

公益社団法人関西経済連合

大阪市経済戦略局

レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館(イタリア)

在大阪イタリア総領事館

イタリア文化会館- 大阪

一般社団法人生産技術振興協会

(順不同)

Leonard da Vinci Android Initiative

「知の巨人ダ・ヴィンチのアンドロイドで、関西の底力を世界に発信しましょう」

大阪大学大学院工学研究科教授
浅田 稔

■略歴 滋賀県出身。

1982年 大阪大学大学院基礎工学研究科後期課程修了

1986年 米国メリーランド大学客員研究員(1年間)

1989年 大阪大学工学部助教授

1995年同教授

1997年 大阪大学大学院工学研究科知能・機能創成工学専攻教授

2002～2008年 ロボカップ国際委員会プレジデント(ロボカップ創設者メンバー)

2005～2011年 科学技術振興機構(JST)

ERATO「浅田共創知能システムプロジェクト」研究総括

2012年～ 科学技術研究補助金 特別推進研究代表

2013年 人工知能学会研究会優秀賞

2013年～ 大阪大学未来戦略機構認知脳システム学研究部門長

日本子ども学会理事, 日本赤ちゃん学会理事

NPO法人ダ・ヴィンチミュージアムネットワーク理事長

■専門分野 知能ロボット学

■主な著書 『ロボットインテリジェンス』[(財)大川情報通信基金大川出版賞]

『ロボットという思想』(NHKブックス)

『知能の謎—認知発達ロボティクスの挑戦』(講談社)

『ロボットの行動学習・発達・進化』(共立出版)など。



大阪大学大学院工学研究科教授
浅田 稔

ロボット工学の世界的第一人者

Leonardo da Vinci Android Initiative

1989年 情報処理学会研究賞

1992年 IEEE/RSJ IROS'92 Best Paper Award

1996年 日本ロボット学会論文賞

1997年 人工知能学会研究奨励賞

1999年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門貢献賞

2001年 文部科学大臣賞・科学技術普及啓発功績者賞

2001年 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門賞:学術業績賞

2004年 人工知能学会研究会優秀賞

2006年 科学技術政策研究所

科学技術への顕著な貢献 in 2006(ナイス ステップな研究者)「イノベーション部門」

2007年 (財)大川情報通信基金大川出版賞

2008年度 グッドデザイン賞

2009年度 日本ロボット学会論文賞

2012年 第28回京都賞先端技術部門(授賞対象分野:情報科学)の専門委員会委員

2013年度 ロボカップヒューマノイドリーグアダルトサイズ優勝、ベストヒューマノイド賞をそれぞれ受賞。



RoboCup 2013

阪大・大工大合同チーム *JoiTech* が、ロボカップ世界大会
でベストヒューマノイド賞を受賞

新聞掲載記事は、総数82件

朝日新聞 15件
日本経済新聞 12件



サッカーの試合などでロボットが性能を競う「ロボカップ」。02年に国際委員会フレジデント（会長）となり、大会を切り盛りしてきた。「ロボカップ産業でまちおこし」と願う地元の実業家に呼ばれて、この秋に大阪市内に本部事務局を置くことが決まった。

大阪大教授として、知能ロボットの研究に取り組む。子ども時代に手塚治虫の作品群に触れ、「ロボットと人はどんな社会をつくるのか」と興味を持ったのがきっかけ。／までに人間のサッカー「世界一

のチームに勝つこと。実現には、敵と味方を素早く見分けるセンサー、人を傷つけない柔らかい皮膚などの開発が必要とされるが、こうした技術だけでは不十分という。「ブラジルのロナウドだって、コーチに言われたままプレーしているわけではない。ロボットも、自ら進んでサッカーの技術を学ぶ『やる気』を持つように進化しないと、人間には勝てないでしょう」

文 山本 智之
写真 山崎虎之助

ひと

浅田 稔さん(52)

大阪に本部事務局が置かれるロボカップ国際委員会の会長

(2006. 7. 13 朝日新聞)

日本経済新聞 (夕刊) 2006年(平成18年)6月29日(月曜日)

大阪大教授

あきだ みのる 浅田 稔さん



ロボット学は人間学

①

競技会形式の「ロボカップ」を仕掛ける
介護ロボなどの技術見据え「サッカー」選ぶ
人間の知性・行動の謎解きにも生かしたい



人間とロボットが対戦する競技会「ロボカップ」が、大阪大学で開かれた。13年間の歴史を持つこの大会は、今年で13回目を迎える。会場には、ロボットの開発者や研究者、学生などが集まり、大会を観戦した。その中で、大会の運営者である浅田稔教授が、大会の意義や今後の展望について語った。

浅田教授は、大会の運営者として、大会の意義や今後の展望について語った。彼は、大会の目的は、人間の知性・行動の謎解きにあると述べた。また、大会の運営には、介護ロボなどの技術が活用されていると述べた。

「ロボカップ」は、人間の知性・行動の謎解きにも生かしたい。浅田教授は、大会の運営者として、大会の意義や今後の展望について語った。彼は、大会の目的は、人間の知性・行動の謎解きにあると述べた。また、大会の運営には、介護ロボなどの技術が活用されていると述べた。

2009.06.29

あさだ　みのる
浅田　稔さん

②

③

（聞き手は編集委員 青木慎二）

くちよる 入部と 作行もで

2009.07.01

あさだ　みのる
浅田　稔さん

ロボット学は人間学

[illegible]

赤ちゃんの頭脳を持つロボット「CB2（ビーブスクエア）」に学習させる渡田さん

研究成果を還元、大阪の繁華街で実証実験

人間とロボットがともに暮らす社会を目指して

人間とロボットがともに暮らす社会 目指して

し発達させるのが、仮説に基づいてプログラムを書き込みます。そのロボットがどう育つのか見ていけば、赤ちゃんが能力を獲得するメカニズムがわかるはずですよ。

ええさん

（聞き手は柳瀬泰典、青木慎二）

今回は児童文学作家の上條さな

（聞き手は編集委員 青木慎一）
次回は児童文学作家の上條さなみさん

米メリーランド大学留学中、
同校上級生と交際する渡辺大介(現)

たわがかりましたよ。……
「……さういふことで、
科学技術院の重宝館で、
軍事国でも米国の
軍事施設を想定し
たみられ、其間調査
の要が海から持ち
込まれますが、明や
うございます。」
堀岡、他大入へ
移つた後、大入も
「……おれ、たゞ、
従来は想定上の状況は勘定
して、防衛に昇格して、
大入も「4年ぶりの大空襲」
と大目と公し、また、
研究を待たないで、今中出
を止まず、予後は探ひの
研究とは同く、予外の好意
に飛つてきた。数日に出来
る絶好な、研究に「打
つた絶好の環境だ。」
また、大入、サッパ、ロバット
を閉する余裕はなくなり、
大入は想定上の状況は勘定

し。そこで詳細は高
を深めて1年後に再挑戦
0を超える中から最優秀
に選ばれました。

その後の研究を決定
が「いはい」な知能
研究会」での議論だ
中心に気鋭の若手口
究者が集まり、脳科
学、社会学など異分
者と激しく議論した
若手研究者が集まっ
ツトの未来を雄辯に議
を持てないか。仲間の

（大阪大教授）や国吉重夫

米留学で軍事研究に取り込まれる怖さを経験

帰国後にサッカーロボ開発、学会で高い評価

異分野の研究者と議論、学問のあり方確信

[illegible]

くるので、ロボット屋に勉強
 させて、三学期を卒業した。
 静かに動いて、たまにボールが
 グールに入るとうぶがもら
 え、その状況を知ります。次から
 は遊びをせよと同じ状況に
 出します。人間が経験する
 仕組みと同じで、主にシミュ
 レーションでなかな

94年に大きな国際学会で発表し
たときの反応は「おもしろいが、
詰めが甘い」。自信があったので、
小さな会議に出て、化学学習の重
要性を認識してもらう努力をしま
す。繰り返すうちに、ロボ
人間にかかわるさまざまな
集約する「総合人間学」が
するようになりました。

（聞き手は編集委員 青木

Leonard da Vinci Android Initiative

連絡先

NPO法人

ダ・ヴィンチミュージアムネットワーク

担当: 舘(やかた)

〒541-0058 大阪府中央区南久宝寺町4-4-1

tel 06-6244-2366 fax 06-6244-9422

mail ohyakata@gmail.com